

1. 小学校講師の逮捕事案を受けて

市内小学校の講師がペン型カメラを教室に設置し、着替えをしていた女子児童を撮影したとして、「性的姿態等撮影罪」で逮捕されました。子どもたちが大半を過ごす学校で、このような事件が起こり、大変遺憾です。

盗撮は重大な犯罪行為であり、児童・保護者・地域の信頼を損なう、卑劣極まりない行為です。失われた信頼を取り戻すことは、並大抵な事ではありません。各学校では、不安になっている児童生徒の心のケアにあたるとともに、信頼回復に努めてください。

本市では、教職員個人が所有している情報機器の教室への持ち込みを禁止していますが、徹底できていますか。学校が児童生徒の安全・安心な居場所になっているのか、再点検を行うとともに、教職員に対して、綱紀の肅正及び服務規律の徹底に取り組んでください。

2. 令和6年能登半島地震について

地震発生から20日余りが過ぎました。地震によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。

本市では、地震発生直後から、消防隊の派遣、災害義援金の街頭募金、支援物資の輸送など、被災地支援の活動を始めています。また、石川県七尾市と穴水町に職員を派遣し、支援物資の引き渡しや荷捌き業務・避難所運営支援にあたっています。

七尾市の避難所(小学校)に派遣されていた教育委員会職員から、次の報告を受けました。

- ・ 避難所でサポートしている最中も、震度4の地震があり、校舎のひびが広がり、「いつ崩れるか」という不安と危険の中での支援活動だった。
- ・ 学校に勤務する教員も被災者で、学校に避難しているにも関わらず、周りの避難者に声をかけ、避難者の困りごとに真摯に対応する「支援者」としての姿があった。
- ・ ある教員は、学校の勤務を終えたのち、「自分にできることは、できる限りやりたい」と、地元の学校で時間の許す限りボランティアをしていた。
- ・ 私が派遣された避難所で支援にあたられている方々は、自ら被災しているにも関わらず、決して悲観的でなく、誰のせいにすることもなく、常に前向きな姿勢で動かれていた。
- ・ 支援に従事し、最も強く感じたことは、避難所運営に地域・学校・ボランティア及び行政の連携協働が欠かせないことである。刻一刻と状況が変わる中で、関係者で共通のビジョンと情報を共有しながら、各場所で臨機応変に機能することの難しさと大事さを知った。

巨大地震は、29年前の1月17日に阪神・淡路大震災があり、また、東南海・南海地震が発生する可能性が高まっています。地震の発生は予想が難しく、突然襲って来ます。その時、慌てることなく冷静に対応できるように、日頃から訓練を積み重ねておくことが必要です。

また、学校が避難所になれば、地域や行政と連携して避難所を運営し、安全を確保したうえで「教育活動」を再開しなければなりません。各学校で作成された「地震発生時の対応マニュアル」について、「発生時の対応」と併せ、「避難所運営」「教育活動再開」についても確認し、子どもや保護者に周知するとともに、各校区の地域の自主防災組織や地域の方とも、しっかり連携し有事に備えてください。

3. ストップいじめ なら子どもサミットについて

1月9日(火)にオンラインで開催し、今年で7回目となりました。これまで、市内の小学校・中学校・高等学校の児童・生徒の代表が、「いじめを許さない学校づくり」に向けて、意見交換を行い、各校の取組について交流してきました。

今年は、「いじめをなくすためにできること ～私たちの未来～」をテーマに、第1回開催時に作成した「ストップいじめ3か条」の改定に向け、各校の代表者が意見を述べ合いました。

私もサミットに参加し、子どもたちが真剣に考え、質問や議論する姿を目にしました。また、コーディネーターとしてフォローされていた先生方からも、「いじめをなくすためにできること」に対する熱い思いや考えを感じ取ることができました。

今回のサミットで改定された、新しい「ストップいじめ3か条」は次のとおりです。

「ストップいじめ3か条」

1. 見つけよう個性を 尊重しよう一人一人を 伝えようありがとう！
2. ③もちに気づき ④っと咲かせる ⑤かまどの思いやりの花
3. 共感・信頼・自信 ～みんなで笑顔の輪を広げる3ステップ～

4. 奈良市教育の推進について

世の中は、ものすごいスピードで社会の価値観が変化しており、まさしく「VUCA（ブーカ）」の時代です。また、GIGAスクール構想の展開により、教育現場のデジタル化も随分進みました。1人1台のタブレット端末をマストアイテムとして授業で活用し、「個別最適な学び」「協働的な学び」を一体的に実践していただいています。この流れは、ますます加速していくと思われま

す。「オンラインを活用した授業」や「デジタルドリル等を活用した学習」を効果的に進めるために、「情報活用能力」を高めていく必要があります。学校教育の中で「デジタル・シティズンシップ教育」をしっかりと推進していかなくてはなりません。

また、「デジタルドリル」の活用は、教員の負担が軽減され、「働き方改革推進」の手段としても有効です。一方で、学習プリントや計算ドリル等の購入を減らせることで、保護者の負担軽減につながります。

学校長には、「俯瞰的な視点」で、これからの教育を見据え、リーダーシップを発揮してもらいたいと思います。そのためにも、学校長自ら、日々研鑽を重ねていただきますようお願いします。

教員にとって、学校や教育委員会が進める教育施策が、腑に落ちたものとなるよう、教員間でじっくりと協議していただき、各学校の実態に合わせて学校長自身の言葉で語ってください。

5. 締めくくりの3学期について

3学期は一年の締めくくりの学期であり、また、次年度の計画作成の時期でもあります。これまで伝えてきた「学校の当たり前を見直す」取組についても総括し、実現できたこと・できなかったことについて、教職員と議論を重ね、次年度の校内体制の構築に向け、取り組んでください。

「働き方改革」の取組として、「デジタルドリルの有効的な活用」や「行事の見直し」、「教科担任制の導入」など、来年度の具体的な計画を今から準備してください。また、働きがいのある職場となるよう、人事においても準備を進めていただきたいと思います。

最後に、先生方ご自身の体調管理にも十分に注意していただき、今年も日々の教育活動に邁進していただきますよう、お願いします。